

# ときを語る

## 日本と台湾

中嶋嶺雄さん (中国学者)



「ピークの時に『アジア・オープン・フォーラム』を終えたことは幸せです」と語る中嶋嶺雄さん  
東京府中市の東京外大長室

# 交流もっとオープンに

「日本と台湾の有識者が話合う『アジア・オープン・フォーラム』をなぜやろうになったかと言った、一つは李登輝さん(台湾の前総統)との約束がある。一九八五年に李さん(松本市で開かれた会議を最後に)と最初に会った時、松本市で開かれた会議を最後に、透明性の高い知

「日本と台湾の有識者が話合う『アジア・オープン・フォーラム』をなぜやろうになったかと言った、一つは李登輝さん(台湾の前総統)との約束がある。一九八五年に李さん(松本市で開かれた会議を最後に)と最初に会った時、松本市で開かれた会議を最後に、透明性の高い知

「日本は対中国外交において主体性を失っている」と思いますが、李さんは今や一市民だから、日本は訪日拒否する理由が見つかる。中国側は批判するかも知れないが、それは今の時代にも重要なことではないか、

「日本は対中国外交において主体性を失っている」と思いますが、李さんは今や一市民だから、日本は訪日拒否する理由が見つかる。中国側は批判するかも知れないが、それは今の時代にも重要なことではないか、

### メモ アジア・オープン・フォーラム

1989年、第1回会議を台北市で開いた。参加者は学者のほか政治家、財界人など幅広いに及び、日台関係の新しい人脈構築に貢献した。李前総統の退場に伴い最終回となった松本会議の全体テーマは「21世紀のアジアの知的戦略」。

### 横顔

なかじ 論、「香港 移りゆくま・みね 都市国家」、李登輝氏との共著「アジアの知略」などがある。評論集「北生まれ、東大大学院修了。京烈烈一でサントリー学社会学博士。95年から東京外大長室。『アジア・オープン・フォーラム』世話人。主な著書に『現代中国 代表』。

蔣経国の一の家の家長体制でした。そういう体質をえぐる台湾での民主化の実験は、もともと民主主義になじみにくい家父長的体質を持つている中華世界を愛する意味があるのではないのでしょうか。

「李さんはまた、野党(民主進歩党)から総統が出来るシステムをつくり、初め、初めのことです」(中国当局は李氏を「隠れ独派」と見なし、陳水扁政権に対しても独立への警戒を緩めていない)

「大陸の体質が中華思想だから、台湾の人たちの心

「日本は中国と国交を樹立しているから、台湾との間では政治・外交面でオープンな分野でオープンに交流すべきでしょう。それは決して大陸を敵視すること、大陸との交流を閉ざすことではないのです」

(聞き手は共同通信編集委員 坂井臣之助、写真・小島健一郎)